

平成22年度 第1回栄養学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成22年7月23日(木) 13時から15時まで
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者: 武藤委員長、井上委員、酒井委員、石崎委員、高橋委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV 議事概要

1. 検討内容

1) 学士力の実現に求められる ICT 活用の検討について

「ICT活用事例についての検討」

(今回の議題と目標)

今年度の活動は、前年度に委員会で作成された学士力考察目標を実現させるために、学生に栄養学を理解させるためにはどのような教育が求められるかについて検討する。

第1回目は、研究する実践事例を設定することとなり、3つのテーマを設定し、次回委員会時に具体的な各自の案や事例、または他大学の情報を持ち寄り将来的な展開について意見をまとめることになった。

【活用事例の提示】

栄養教育論、栄養情報処理、生化学、臨床栄養学実習への活用として事例の提示(配布資料③他)と意見が出された。

- 学生に栄養の基礎を理解し自分で活用させる能力を身につけさせるために、子供むけの6コマ漫画を作らせている。テーマを決め子供向けに噛み砕いて説明するためには知識を自分のものにしなないとできない点に効果があり(学士力1, 3)、子供に理解させるように説明できる能力育成に役立つとの意見がでた。
- また付属病院の入院患者向けに季節のカード(ひなまつり向け3色粥の作り方等)を個人毎に案を作成させた後、グループでディスカッションさせ、病院に採用してもらうために病院関係者との話し合いをしながら作り直しをし、完全な形に作り上げてカードを贈る作業をやらせている。疾病の予防・治療の知識を必要とし、食事・栄養療法について相手に理解させるように説明できる能力(学士力4)の育成に役立たせている。実際に病院で採用してもらうという目的があるため、達成感がある。
- 栄養教育で学生に3つ折のリーフレットやA4ポスター、電子紙芝居をグループで作成させているが、教員からアイデアのアドバイスがないと自分から発想できない。
また、応用栄養学では症例を提示し、グループディスカッションさせる。栄養アセスメントでは調査・臨床審査や自覚症状を書いた用紙を作成させ配布し、集めたデータをグループで問題点を抽出して、栄養ケアプランニングをさせ、献立作成・栄養価計算・評価をした後、調理を実施、デジカメで撮影した後、さらに評価させる。その結果は対象者へ発信するまでを行わせている(学士力5)。ケアプランニングではモニター、音声によりリアルタイムで行えると良い。音声や映像の活用にはskypeなどが利用できる。このようなシステムは医学の分野で進んでおり、今後は臨床実習での活用ができる。ソフト面においても使いやすくなっている。
遠隔会議での対面式の方法は大学同士、または病院とのコミュニケーション作りで動機づけになる。

マネジメント力については、事例で示したように自分の言葉で子供に向けた説明ができるようにさせる。身体測定等の指標をもとに栄養ケアプランの作成をさせる事例、栄養マネジメントのプレゼンテーションをさせる事例、実習中の指導について説明頂いた。

- 大学間のサイバー授業について、以前導入時はおおがかりの設定で双方の時間があわず継続できなかったが、今の利用法ではうまくいくのではないかと。
- 四国では e-Knowledge コンソーシアム四国の単位互換制度ができているが、栄養学に関するコンテンツの作成が不十分であり、まだ活用しきれていない。栄養学に関する内容は画像で見れば理解を深めることができることが多い。
- 生化学実験ではデータの整理にパソコンを活用させている。学生に脂質異常症向けの献立をつくり、栄養計算をさせ基準にあっているか確認後、HP 上に掲載している。公開によって著作権の知識も必要となる。また、事前にブログにのせる作業を行わせることで自分の行った作業に対して他者の意見を見ることができる。自分がつくった献立がどれだけ活かされているか寄せられた意見を統計的な数値で確認させ、結果について PP を使って作成、発表させるまでを行っている。生化学だけでなく臨床栄養学実習など他教科との連携を行い、一連の内容を学ぶことができる。
- 最近の学生はグローバル意識がない。地域に対する基礎知識がない。化学の知識がない学生が多い。また授業に対する集中力がないとの意見がでた。

以上の意見から学士力について下記の3つの教育モデルが上がりました。

- ①学士力1,3の学びの動機づけから実践までを行う教育モデル
- ②学士力5の栄養マネジメントを身につけさせるための教育モデル
- ③学士力4の食事・栄養療法について科学的根拠で説明する能力をつけさせるための他大学や病院との連携による教育モデル

2. 平成22年栄養学FD調査の意見について

平成22年栄養学FD調査の意見に基づき、栄養学教育における情報教育(中間まとめ)(配付資料; **栄養学教育における情報教育(中間まとめ)修正版**)の下線部の修正を行った。

3. 次回課題

- 議題であがった上記3つのタイプを参考に、5年先を見据えた教育方法を考慮し、他大学情報も含めて活用事例を探し出し、具体的な事例または案を持ち寄ることとなった。
- 今までにないモデルとしてあらたに学士力教育の理想モデルをつくりあげることにも念頭に置いて、各自、用意をする。

V. 次回の開催日程

日時：平成22年10月2日(土) 13:30~16:30

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上

栄養学教育における情報教育(中間まとめ)修正版

* ICT: (Information and Communication Technology) 情報通信技術

【到達目標1】

ICTを利用して、栄養・食生活と健康・疾病に関する情報を収集・蓄積・分析に活用できる。

【到達度】

- ① 栄養・食生活と健康・疾病に関する情報の所在、構成、背景を知っている。
- ② インターネットを用いて、栄養・食生活と健康・疾病に関する適正な情報を検索し、選別できる。
- ③ 選別した情報をデータ化して、統計・解析ができる。
- ④ 多様なICTを用いて、情報倫理に配慮した効果的なプレゼンテーションができる。

【教育内容・教育方法】

- ①と②は、情報検索を実施し、関連する Web サイトに接続させ、情報の収集および蓄積方法の演習を行う。
- ③は、問題解決のための情報を表計算ソフトなどを用いてデータ化したものを統計処理し、その結果の妥当性を評価・判定する演習を行う。
- ④は、プレゼンテーションツールを用いて、引用や剽窃などに留意して、実習を行う。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、レポート(電子媒体)、学習支援システムなどにより確認する。
- ④は、栄養教材の作品を学生の相互評価を含め、確認する。

【到達目標2】

栄養マネジメントに必要な専門的な情報活用ができる。

【到達度】

- ① アセスメントに必要な基本情報を知っている。
- ② 基本情報をデータ化できる。
- ③ 汎用アプリケーションソフトを用いて解析・評価できる。
- ④ 栄養アプリケーションソフトを用いて、ケアプランを作成できる。
- ⑤ 対象特性別アセスメント・ケアプラン情報を発信できる。
- ⑥ 結果のモニタリング、評価、フィードバックにICTを活用することができる。

【教育内容・教育方法】

- ①～③は、栄養データを用いて、汎用アプリケーションソフトを活用できる技術を修得する演習を行う。
- ④は、栄養アプリケーションソフトを用いて、各種事例に対するケアプラン作成を体験させる。
- ⑤と⑥は、栄養マネジメント(栄養アセスメント、ケアプラン、モニタリング、評価、フィードバック等)に関する問題解決型学習法を用いた演習を行う。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、実技試験により確認する。
- ④は、作成したケアプランをレポートなどで確認する。
- ⑤と⑥は、ケーススタディについて実技、レポート、ポータルフォリオなどで確認する。

【到達目標3】

ICTを活用して、地球レベルでの「食」をテーマとした交流を行うことができる。

【到達度】

- ① 日本および世界の食文化等について適正な情報を収集・加工・発信することができる。
- ② 海外研修や国際会議等に参加し、インターネットなどを通じて継続的な情報交換ができる姿勢を身につける。

【教育内容・教育方法】

- ①は、インターネット(メール、ブログ、掲示板、ホームページ等)による情報交換に必要な技術や食

文化等のデジタル情報を作成する演習を行う。

②は、食文化等の交流に関するプレゼンテーションを行い、成果を評価するための体験学習を行う。

【到達度確認の測定手段】

①は、情報技術を活用した食文化等に関するレポート、プレゼンテーションにより確認する。

②は、食文化等の交流の成果をレポート、プレゼンテーション等により確認する。